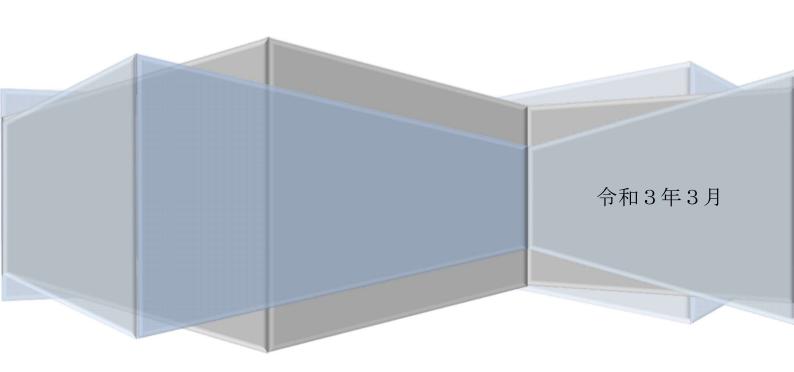
統一的な基準による 財務書類

令和2年度決算

俱知安町 総務課財政係



目次

但知安町の財務報告書	統一的な基準による財務書類

1.	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• •	• 1
2.	対象となる会計の範囲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 2
3.	財務書類について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 3
4.	財務書類の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 4
5.	財務書類の分析数値・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 8
資料線			
統-	一的な基準の財務書類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 12

1. はじめに

現行の会計制度は、単年度の現金の動きを示した「現金主義・単式簿記」で財政状況を公開してきました。しかし、現行の制度では、現金以外の情報が不足しており、どれだけの資産、負債があるのか明確ではなかったため、実際の自治体の財政状況を把握・分析することができませんでした。

総務省は、平成27年1月に「統一的な基準による地方公会計の整備促進について」を示し、平成27年度から平成29年度までの3年間で、全ての地方公共団体において統一的な基準による財務書類等を作成するように要請しました。

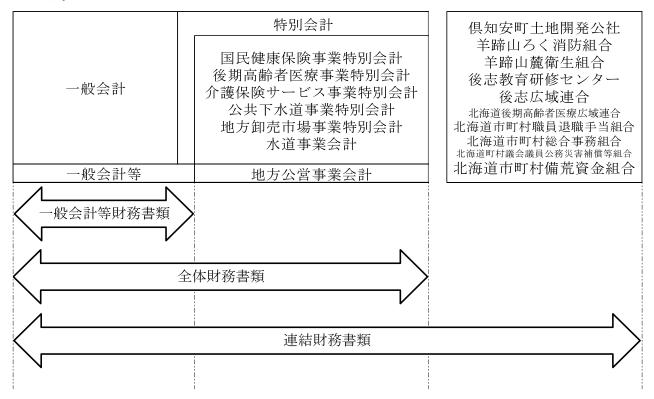
本町においては、平成28年度決算から「統一的な基準」による財務書類を作成し、倶知 安町の資産の把握や財政状況の分析に努めています。

この財務書類は、「一般会計等」と特別会計や企業会計(水道事業)を合わせた「全体会計」に加え、一部事務組合や広域連合など、町の財政に影響する関係団体を含む「連結会計」の3つの区分ごとに作成することになっており、倶知安町が所有する資産と債務が把握できます。

今後も、それらの分析内容を充分活用して、より一層効率的な財政運営に取り組んでまいります。

2. 対象となる会計の範囲

財務書類は、一般会計及び地方公営事業会計以外の特別会計からなる「一般会計等」、地方公営事業会計を加えた「全体会計」、さらに関連団体を加えた「連結会計」の3種類があります。



※ 倶知安町土地開発公社、羊蹄山ろく消防組合、羊蹄山麓衛生組合、後志教育研修センター、後志広域連合、北海道後期高齢者医療広域連合以外の一部事務組合の令和2年度決算は、移行中であり未連結となるため、今年度の報告書では連結財務書類に含まれていません。

• 作成基準日等

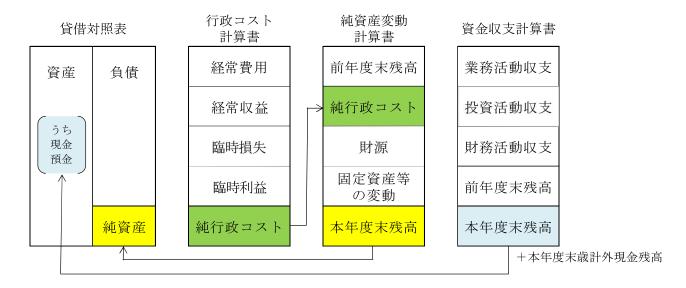
会計年度の最終日である令和3年3月31日です。

出納整理期間(令和3年4月1日から5月31日まで)の入出金については、作成基準日までに終了したものとして処理しています。

人口1人当たりの数値を算出する際には、令和3年1月1日現在の住民基本台帳人口 15,119人により算定しています。

3. 財務書類について

財務書類は貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書の4表から構成されており、4表のそれぞれの関係は以下の図のようになっています。



- ① 貸借対照表の資産のうち「現金預金」の金額は、資金収支計算書の本年度末残高に本年度末歳計外現金残高を足したものと対応します。
- ② 貸借対照表の「純資産」の金額は、資産と負債の差額として計算されますが、これは 純資産変動計算書の期末残高と対応します。
- ③ 行政コスト計算書の「純行政コスト」の金額は、純資産変動計算書に記載されます。

1) 貸借対照表

基準日時点において、町が保有する「資産」「負債」「純資産」の残高を示すものです。

資産の部・・・資金や金融資産と将来の世代に引き継ぐ社会資本の金額

負債の部・・・将来の世代が負担しなければならない金額

純資産の部・・これまでの世代が負担した金額

2) 行政コスト計算書

1年間の行政活動のうち、福祉サービスやごみの収集に係る経費など、資産形成につながらない行政サービスに要したコストと使用料・手数料等の収益を示すものです。

3) 純資産変動計算書

貸借対照表のうち「純資産の部」に計上されている数値が1年間でどのように変動したかを示すものです。

4) 資金収支計算書

1年間における資金の流れを示すもので、性質に区分して支出と収入を示し、どのような活動に資金が使われたかを示したものです。

4. 財務書類の内容

○貸借対照表 (バランスシート)

①資産:学校、公園、道路など将来の世代に引継ぐ社会資本や、投資、基金等将来

現金化することが可能な財産

②負債:地方債や賞与等引当金など将来の世代の負担となるもの

③純資産:過去の世代や国・道が負担した将来返済しなくてもよい財産

(単位:百万円)

資産の部				負債の部			
	一般 会計等	全体	連結		一般 会計等	全体	連結
固定資産	36, 074	43, 891	44, 245	固定負債	11, 423	14, 914	14, 971
有形固定資産	34, 563	42, 336	42,658	地方債	9,891	13, 059	13, 111
事業用資産	18,002	18,069	18, 260	長期未払金	205	205	205
インフラ資産	15, 614	22, 975	23, 008	退職手当引当金	1, 327	1, 392	1, 392
物品	1, 763	2,720	3, 240	損失補償等引当金	_	_	_
無形固定資産	_	2	10	その他	_	257	263
投資その他の資産	1,511	1, 554	1,576	流動負債	923	1, 437	1, 470
流動資産	1, 250	1, 763	1,974	1年内償還予定地方債	752	1, 146	1, 146
現金預金	280	755	953	未払金	75	153	153
未収金	46	84	86	未払費用	_	_	_
短期貸付金	15	15	15	前受金	_	_	_
基金	910	910	919	前受収益	_	_	_
棚卸資産	_	_	_	賞与等引当金	74	81	101
その他	_	_	_	預り金	22	49	61
徴収不能引当金	0	0	0	その他	_	9	10
				負債合計	12, 345	16, 350	16, 441
				純資産の部			
				純資産合計	24, 979	29, 304	29, 777
資産合計	37, 324	45, 654	46, 218	負債及び純資産合計	37, 324	45, 654	46, 218

令和2年度一般会計等では、資産は373億2千4百万円、負債は123億4千5百万円、純資産は249億7千9百万円となっています。

また、全体会計では、資産は 456 億 5 千 4 百万円、負債は 163 億 5 千万円、純資産は 293 億 4 百万円となったほか、連結会計では、資産は 462 億 1 千 8 百万円、負債は 164 億 4 千 1 百万円、純資産は 297 億 7 千 7 百万円となりました。

このうち、負債は将来の世代が負担していくことになるもので、純資産は過去の世代や国、道の 負担で既に支払いが済んでいるものになります。

これまでに形成した資産と、将来の町民負担となる負債を町民1人当たりに換算すると、一般会計等では、2,469千円の資産に対して、817千円の負債、全体会計では、3,020千円の資産に対して、1,081千円の負債、連結会計では3,057千円の資産に対して、1,087千円の負債となっています。

○行政コスト計算書

費用:行政サービスの提供のために費やしたもの

①人件費:職員給与や議員報酬など

②物件費等:消耗品、施設等の維持補修に係る経費や減価償却費など

③その他業務費用:支払利息など

④移転費用:他会計への支出額、補助金等、社会保障給付など

収益:直接サービス提供により住民等がその対価として支払い、自治体が得られるもの。

(単位:百万円)

	一般 会計等	全体	連結
経常費用	10, 524	11, 429	15, 351
業務費用	5, 890	6, 689	7, 288
人件費	1, 563	1,710	1, 995
物件費等	4, 234	4, 819	5, 067
物件費	2, 435	2, 673	2, 856
維持補修費	189	217	231
減価償却費	1, 474	1, 791	1,842
その他	136	138	138
その他の業務費用	92	160	226
移転費用	4, 635	4, 740	8, 063
経常収益	521	1, 156	1, 168
純経常行政コスト	10, 003	10, 273	14, 183
臨時損失	7	7	18
臨時利益	75	75	75
純行政コスト	9, 936	10, 205	14, 127

令和2年度一般会計等では、経常費用が105億2千4百万円、経常収益は5億2 千1百万円、純行政コスト(費用から収益を差し引いたもの)は99億3千6百万円 となっています。

全体会計では、経常費用が114億2千9百万円、経常収益は11億5千6百万円、 純行政コストは102億5百万円となったほか、連結会計では、経常費用が153億5 千1百万円、経常収益は11億6千8百万円、純行政コストは141億2千7百万円と なっています。

一般会計等における経費の内訳は、経常費用のうち人件費が占める割合は14.9%、物件費等の割合は40.2%、地方債の利息などのその他業務費用の割合は0.9%、また、各団体への補助金や負担金などの移転費用の割合は44.0%となっています。

○純資産変動計算書

▼余剰分の計算

①純行政コスト: 行政コスト計算書の純行政コストと一致。

②財源:財源をどのような収入で調達したかを表す。

▼固定資産形成分: 財源を将来世代も利用可能な固定資産、貸付金や基金等にど

の程度使ったかを表す。

①固定資産等の変動: 当該年度に学校、道路などの社会資本を取得した額と過

去に取得した社会資本の経年劣化等に減少額を表します。

基金、貸付金、出資金など長期金融資産の当該年度におけ

る増加と減少を表す。

②資産評価差額:有価証券等の評価差額を表す。

③無償所管換等:無償で譲渡または取得した固定資産の評価額等を表す。

(単位:百万円)

	一般会計等			全体		連結			
	合計	固定資産	余剰分	合計	固定資産	余剰分	△ ≅L	固定資産	余剰分
	一百日	等形成分	(不足分)	百亩	等形成分	(不足分)	合計	等形成分	(不足分)
前年度末純資産残高	25, 387	35, 182	△9, 795	29, 429	42, 699	△13, 270	29, 847	43, 056	△13, 209
行政コスト (△)	△9, 936		△9, 936	△10, 205		△10, 205	△14 , 127		△14, 127
財源	9, 497		9, 497	10, 056		10, 056	14, 050		14, 050
本年度差額	△439		△439	△149		△149	△77		△77
固定資産等の変動(内部変動)	_	1, 801	△1,801	_	2, 088	△2, 088	_	2, 092	△2, 092
資産評価差額	_	_	_	_	_	_	_	_	-
無償所管換等	16	16	_	16	16	_	17	17	_
その他	15	_	15	8	13	△5	△11	13	$\triangle 24$
本年度純資産変動額	△408	1, 817	△2, 225	△125	2, 117	△2, 242	△71	2, 122	△2, 193
本年度末純資産残高	24, 979	36, 999	△12, 021	29, 304	44, 816	△15, 512	29, 777	45, 179	△15, 402

令和2年度一般会計等では本年度純資産変動額が4億8百万円の減少となっています。同じく全体会計では1億2千5百万円、連結会計では7千1百万円の減少となっています。

○資金収支計算書

①業務活動収支:行政サービスを行う中で、毎年度継続的に収入、支出されるもの

②投資活動収支:学校、公園、道路などの資産形成や投資、基金等の収入、支出など

③財務活動収支:地方債、借入金などの収入、支出など

(単位:百万円)

	一般会計等	全体	連結
業務支出	8, 963	9, 529	13, 419
業務費用支出	4, 328	4, 789	5, 355
移転費用支出	4, 635	4, 740	2,014
業務収入	9, 835	10, 986	14, 993
臨時支出	_	_	_
臨時収入	_	_	_
業務活動収支	873	1, 457	1, 574
投資活動支出	3, 290	3, 954	4, 040
投資活動収入	707	814	858
投資活動収支	△2, 582	△3, 140	△3, 182
財務活動支出	662	1, 062	1, 083
財務活動収入	2, 290	2, 709	2, 709
財務活動収支	1, 628	1, 647	1, 626
本年度資金収支額	△82	△36	18
前年度末資金残高	340	769	901
本年度末資金残高	258	733	920

前年度末歳計外現金残高	22	22	23
本年度歲計外現金増減額	0	0	11
本年度末歳計外現金残高	22	22	34
本年度末現金預金残高	280	755	953

令和2年度一般会計等では、業務活動収支は8億7千3百万円、投資活動収支は \triangle 25億8千2百万円、財務活動収支は16億2千8百万円となり、本年度資金収支額は \triangle 8千2百万円となっています。

また、全体会計では、業務活動収支は 14 億 5 千 7 百万円、投資活動収支は $\triangle 31$ 億 4 千万円、財務活動収支は 16 億 4 千 7 百万円となり、本年度資金収支額は $\triangle 3$ 千 6 百万円となったほか、連結会計では、業務活動収支は 15 億 7 千 4 百万円、投資活動収支は $\triangle 31$ 億 8 千 2 百万円、財務活動収支は 16 億 2 千 6 百万円となり、本年度資金収支額は 1 千 8 百万円となりました。

この結果、本年度末資金残高は、一般会計等で2億5千8百万円、全体会計で7億3千3 百万円、連結会計で9億2千万円となりました。

- 5. 財務書類の分析数値
- (1) 資産形成度の指標 「将来世代に残る資産はどのくらいあるのか」
 - ① 住民1人当たり資産額
 - ▼町が所有する資産額を住民人口で除して、1人当たりの金額を算出したものです。 資産合計 ÷ 住民基本台帳人口

37,323,936 千円 ÷ 15,119 人 = 2,469 千円 (一般会計等) 45,654,150 千円 ÷ 15,119 人 = 3,020 千円 (全体会計) 46,218,138 千円 ÷ 15,119 人 = 3,057 千円 (連結会計)

② 歳入額対資産比率

▼当該年度の歳入総額に対する資産の比率を算出することにより、これまでに形成されたストックとしての資産が、歳入の何年分に相当するかを表し、地方公共団体の資産形成の度合いを測ることができます。

資産合計 ÷ (本年度収入合計 + 前年度末資金残高)

37, 323, 936 千円÷ (12, 832, 954 千円+339, 636 千円) = 2.83 年 (一般会計等)

45,654,150 千円÷ (14,508,907 千円+769,454 千円) = 2.99 年 (全体会計)

46, 218, 138 千円÷ (18, 559, 672 千円+901, 071 千円) = 2. 37 年 (連結会計)

③ 有形固定資產減価償却率(資產老朽化比率)

▼土地、立木竹及び建設仮勘定以外の有形固定資産を一定の耐用年数によって減価償却を実施した場合、年度末における資産が全体としてどの程度経過しているかの比率で、100%に近いほど老朽化の程度が高いことを示しています。

有形固定資産の減価償却累計額 ÷ 取得価額等

47,055,782 千円 ÷ 71,433,736 千円 = 65.9% (一般会計等) 55,659,322 千円 ÷ 87,457,766 千円 = 63.6% (全体会計) 56,897,276 千円 ÷ 88,989,456 千円 = 63.9% (連結会計)

- (2) 世代間公平性の指標 「将来世代と現世代との負担の分担は適切か」
 - ① 純資産比率

▼地方公共団体が有する資産のうち純資産の部分は過去及び現役世代の負担によるもので、 負債の部分は将来の返還が必要なものとして将来世代が負担することとなります。そのため、 純資産の変動は、将来世代と現世代との間で負担の割合が変動したことを意味します。将来 負担を過重にしないためにも純資産比率は高いほうが良いとされています。

純資産合計 ÷ 資産合計

24,978,517 千円 ÷ 37,323,936 千円 = 66.9% (一般会計等) 29,303,879 千円 ÷ 45,654,150 千円 = 64.2% (全体会計) 29,776,751 千円 ÷ 46,218,138 千円 = 64.4% (連結会計)

② 社会資本等形成の世代間負担比率

▼町の所有する社会資本等の財源のうち、将来償還等が必要な負債が占める割合を算出することにより、社会資本等形成に係る将来世代の負担の比率を把握することが出来ます。この 比率が高いほど、将来世代の負担が大きいことを示しています。

地方債 ÷ 社会資本等(事業用資産 + インフラ資産)

9,890,602 千円 ÷ 33,616,341 千円 = 29.4% (一般会計等) 13,059,102 千円 ÷ 41,044,324 千円 = 31.8% (全体会計) 13,111,041 千円 ÷ 41,267,843 千円 = 31.8% (連結会計)

(3) 持続可能性(健全性)の指標 「財政に持続可能性があるか」

① 住民1人当たり負債額

▼負債(将来世代の負担)が住民1人当たりいくらあるのかを表し、住民1人当たりの資産 や純資産などと対比して財政の健全性を検討する指標です。

負債額 ÷ 住民基本台帳人口

12,345,419 千円 ÷ 15,119 人 = 817 千円 (一般会計等) 16,350,271 千円 ÷ 15,119 人 = 1,081 千円 (全体会計) 16,441,386 千円 ÷ 15,119 人 = 1,087 千円 (連結会計)

② 基礎的財政収支(プライマリーバランス)

▼資金収支計算書上の業務活動収支(支払利息を除く。)及び投資活動収支の合計額のことをいい、地方債等の元利償還金を除いた歳出と地方債等発行収入を除いた歳入の収支を示しています。

基礎的財政収支がプラスの場合は、その年度の地方債の元金償還金や基金等への積立金を除くすべての歳出について、地方債の発行や基金等の取り崩しなどを除く税収などの収入で賄われたことを表しており、逆にマイナスの場合は、借金や基金等の取り崩しなどに頼っている状況を表します。

業務活動収支 - (△支払利息支出) + 投資活動収支 872,519 千円- (△46,513 千円) + (△2,582,468 千円) = △1,663,436 千円 (一般会計等) 1,457,307 千円- (△97,873 千円) + (△3,140,249 千円) = △1,585,069 千円 (全体会計) 1,574,337 千円- (△98,184 千円) + (△3,181,692 千円) = △1,509,171 千円 (連結会計)

- (4) 効率性の指標「行政サービスは効率的に提供されているか」
 - ① 住民1人当たり純経常行政コスト
 - ▼純経常行政コストは、住民1人当たりいくらかかっているのかを表しています。

純経常行政コスト ÷ 住民基本台帳人口

10,003,284 千円 ÷ 15,119 人 = 662 千円 (一般会計等) 10,272,803 千円 ÷ 15,119 人 = 679 千円 (全体会計)

14, 183, 356 千円 ÷ 15, 119 人 = 938 千円 (連結会計)

② 住民1人当たり人件費

▼行政コストのうち人件費だけに絞って住民1人当たりのコストを計算したものです。人件費には、議員、職員等の給与や手当等の現金支出のみならず、発生主義において認識した賞与引当金も含んでいます。

人件費 ÷ 住民基本台帳人口

1,563,289千円 ÷ 15,119人 = 103千円 (一般会計等)

1,709,936千円 ÷ 15,119人 = 113千円 (全体会計)

1,995,361千円 ÷ 15,119人 = 132千円 (連結会計)

③ 住民1人当たり物件費

▼物件費等は、業務委託料や社会資本等(事業用資産+インフラ資産)の使用コストを表す 減価償却費、維持補修費等の合算額を表しており、このコストが住民1人当たりいくらにな るかを表しています。

物件費等 : 住民基本台帳人口

4,233,907 千円 ÷ 15,119 人 = 280 千円 (一般会計等)

4,818,660 千円 ÷ 15,119 人 = 319 千円 (全体会計)

5,066,683 千円 ÷ 15,119 人 = 335 千円 (連結会計)

④ 住民1人当たり移転費用

▼扶助費などの社会保障関係給付や各特別会計への繰出金、各団体への補助金などの行政サービスが住民1人当たりいくらになるかを表します。

移転費用 ÷ 住民基本台帳人口

4,634,751 千円 ÷ 15,119 人 = 307 千円 (一般会計等)

4,739,820 千円 ÷ 15,119 人 = 314 千円 (全体会計)

8,063,433 千円 ÷ 15,119 人 = 533 千円 (連結会計)

- (5) 弾力性の指標 「資産形成等を行う余裕はどのくらいあるか」
 - ① 行政コスト対税収等比率
 - ▼税収等の一般財源等に対する行政コストの比率を表しています。当該年度の税収等のうち、どれだけが資産形成を伴わない行政コストに使われたのかを把握することが出来ます。この比率が100%に近づくほど資産形成の余裕度が低く、さらに100%を上回ると、過去から蓄積した資産が取り崩されたことを表します。

純経常行政コスト ÷ 財源等(税収等+国県等補助金)

10,003,284 千円 ÷ 9,496,600 千円 = 105.3% (一般会計等) 10,272,803 千円 ÷ 10,055,518 千円 = 102.2% (全体会計) 14,183,356 千円 ÷ 14,050,063 千円 = 100.9% (連結会計)

- (6) 自律性の指標「歳入はどのくらい税収等で賄われているか」
 - ① 受益者負担比率
 - ▼地方公共団体の経常費用のうち、サービスの受益者が直接的に負担するコストの比率です。 経常収益 ÷ 経常費用

521,020 千円 ÷ 10,524,304 千円 = 5.0% (一般会計等) 1,155,820 千円 ÷ 11,428,623 千円 = 10.1% (全体会計)

1, 168, 114 千円 ÷ 15, 351, 470 千円 = 7.6% (連結会計)

貸借対照表 (令和3年3月31日現在)

科目	金額	科目	(単位: 十円) 金額
	並領		並領
【資産の部】	00 074 074	【負債の部】	44 400 044
固定資産	36, 074, 274	固定負債	11, 422, 611
有形固定資産	34, 563, 255	地方債	9, 890, 602
事業用資産	18, 002, 448	長期未払金	204, 594
土地	7, 428, 735	退職手当引当金	1, 327, 415
立木竹	786, 658	損失補償等引当金	
	28, 355, 798		
建物		その他	000 000
建物減価償却累計額	△ 18, 757, 981	流動負債	922, 808
工作物	430, 955	1年内償還予定地方債	751, 680
工作物減価償却累計額	△ 262, 021	未払金	75, 336
船舶	_	未払費用	_
船舶減価償却累計額	_	前受金	_
浮標等	_	前受収益	_
			74 010
浮標等減価償却累計額	_	賞与等引当金	74, 219
航空機	-	預り金	21, 573
航空機減価償却累計額	-	その他	
その他	-	負債合計	12, 345, 419
その他減価償却累計額	_	【純資産の部】	, ,
建設仮勘定	20, 304	固定資産等形成分	36, 999, 062
	15, 613, 893		
インフラ資産		余剰分(不足分)	△ 12, 020, 545
土地	1, 435, 235		
建物	3, 576, 216		
建物減価償却累計額	△ 929, 988		
工作物	37, 307, 965		
工作物減価償却累計額	△ 26, 289, 904		
その他	20, 200, 004		
	_		
その他減価償却累計額			
建設仮勘定	514, 369		
物品	1, 762, 803		
物品減価償却累計額	△ 815, 888		
無形固定資産			
ソフトウェア	_		
その他	_		
	1 511 010		
投資その他の資産	1, 511, 019		
投資及び出資金	24, 288		
有価証券	-		
出資金	24, 288		
その他	=		
投資損失引当金	_		
長期延滞債権	19, 447		
┃ 長期貸付金 ┃	1 202 242		
基金	1, 303, 343		
減債基金			
その他	1, 303, 343		
その他	166, 277		
徴収不能引当金	△ 2, 336		
流動資産	1, 249, 662		
現金預金	279, 623		
未収金	45, 640		
短期貸付金	15, 000		
基金	909, 788		
財政調整基金	907, 145		
減債基金	2, 643		
棚卸資産			
その他		/+ '次 立 ヘニ!	04 070 547
徴収不能引当金	△ 389	純資産合計	24, 978, 517
資産合計	37, 323, 936	負債及び純資産合計	37, 323, 936

【様式第2号】

行政コスト計算書

自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日

	<u>(単位:十円)</u>
科目	金額
経常費用	10, 524, 304
業務費用	5, 889, 553
人件費	1, 563, 289
職員給与費	1, 435, 688
賞与等引当金繰入額	74, 219
退職手当引当金繰入額	_
その他	53, 382
物件費等	4, 233, 907
物件費	2, 434, 934
維持補修費	188, 954
減価償却費	1, 474, 154
その他	135, 865
その他の業務費用	92, 357
支払利息	46, 513
徴収不能引当金繰入額	3, 688
その他	42, 156
移転費用	4, 634, 751
補助金等	3, 481, 602
社会保障給付	683, 129
他会計への繰出金	469, 397
その他	623
経常収益	521, 020
使用料及び手数料	181, 326
その他	339, 694
純経常行政コスト	10, 003, 284
臨時損失	7, 101
災害復旧事業費	_
▲ 資産除売却損	7, 101
投資損失引当金繰入額	_
損失補償等引当金繰入額	_
その他	_
□ 臨時利益 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	74, 600
	73, 225
その他	1, 375
純行政コスト	9, 935, 786

【様式第3号】

純資産変動計算書

自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日

科目	合計	固定資産	余剰分
		等形成分	(不足分)
前年度末純資産残高	25, 386, 955	35, 182, 345	△ 9, 795, 390
純行政コスト(△)	△ 9, 935, 786		△ 9, 935, 786
財源	9, 496, 600		9, 496, 600
税収等	6, 059, 942		6, 059, 942
国県等補助金	3, 436, 658		3, 436, 658
本年度差額	△ 439, 185		△ 439, 185
固定資産等の変動(内部変動)		1, 800, 704	△ 1, 800, 704
有形固定資産等の増加		3, 058, 932	△ 3, 058, 932
有形固定資産等の減少		△ 1, 583, 063	1, 583, 063
貸付金・基金等の増加		489, 834	△ 489, 834
貸付金・基金等の減少		△ 165,000	165, 000
資産評価差額	_	_	
無償所管換等	16, 013	16, 013	
その他	14, 734	ı	14, 734
本年度純資産変動額	△ 408, 438	1, 816, 717	△ 2, 225, 155
本年度末純資産残高	24, 978, 517	36, 999, 062	△ 12, 020, 5 4 5

行政コスト及び純資産変動計算書

自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日

科目	金額	1	(辛四、111)
—————————————————————————————————————	10, 524, 304		
業務費用	5, 889, 553		
人件費	1, 563, 289		
職員給与費	1, 435, 688		
賞与等引当金繰入額	74, 219		
退職手当引当金繰入額	-		
その他	53, 382		
物件費等	4, 233, 907		
物件費	2, 434, 934		
維持補修費	188, 954		
減価償却費	1, 474, 154		
その他	135, 865		
その他の業務費用	92, 357		
支払利息	46, 513		
世界	3, 688		
その他	42, 156		
移転費用	4, 634, 751		
補助金等	3, 481, 602		
社会保障給付	683, 129		
他会計への繰出金	469, 397		
その他	623		
経常収益	521, 020		
使用料及び手数料	181, 326		
その他	339, 694		
純経常行政コスト	10, 003, 284		
臨時損失	7, 101		
災害復旧事業費	_		
資産除売却損	7, 101		
投資損失引当金繰入額	_		
損失補償等引当金繰入額	_		
その他	_		
臨時利益	74, 600		
資産売却益	73, 225	金	:額
その他	1, 375	固定資産等形成分	余剰分(不足分)
純行政コスト	9, 935, 786		9, 935, 786
財源	9, 496, 600		9, 496, 600
税収等	6, 059, 942		6, 059, 942
国県等補助金	3, 436, 658		3, 436, 658
本年度差額	△ 439, 185		△ 439, 185
固定資産等の変動(内部変動)		1, 800, 704	△ 1, 800, 704
有形固定資産等の増加		3, 058, 932	△ 3, 058, 932
有形固定資産等の減少		△ 1, 583, 063	1, 583, 063
貸付金・基金等の増加		489, 834	△ 489, 834
貸付金・基金等の減少		△ 165,000	165, 000
資産評価差額	_	_	
無償所管換等	16, 013	16, 013	
その他	14, 734		14, 734
本年度純資産変動額	△ 408, 438	1, 816, 717	△ 2, 225, 155
前年度末純資産残高	25, 386, 955	35, 182, 345	△ 9, 795, 390
本年度末純資産残高	24, 978, 517	36, 999, 062	△ 12, 020, 545

【様式第4号】

資金収支計算書

自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日

	<u> (単位:十円)</u>
科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	8, 962, 809
業務費用支出	4, 328, 058
人件費支出	1, 602, 664
物件費等支出	2, 636, 725
■ 初件員等文出 支払利息支出	46, 513
その他の支出	42, 156
移転費用支出	4, 634, 751
補助金等支出	3, 481, 602
社会保障給付支出	683, 129
他会計への繰出支出	469, 397
その他の支出	623
★務収入	9, 835, 328
税収等収入	6, 030, 646
国県等補助金収入	3, 283, 663
使用料及び手数料収入	181, 326
その他の収入	339, 694
臨時支出	_
災害復旧事業費支出	_
その他の支出	_
臨時収入	_
業務活動収支	872, 519
【投資活動収支】	372, 313
■ 【投資化場份人】 ■ 投資活動支出	3, 289, 723
公共施設等整備費支出	2, 571, 114
基金積立金支出	703, 609
■ 金並慎立並文出 投資及び出資金支出	700,005
投資及び出資金文出 貸付金支出	15, 000
	15,000
その他の支出	707 055
投資活動収入	707, 255
国県等補助金収入	152, 995
基金取崩収入	437, 451
貸付金元金回収収入	15, 000
資産売却収入	101, 808
その他の収入	
投資活動収支	△ 2, 582, 468
【財務活動収支】	
財務活動支出	662, 007
地方債償還支出	662, 007
その他の支出	-
財務活動収入	2, 290, 371
地方債発行収入	2, 290, 371
その他の収入	-
財務活動収支	1, 628, 364
本年度資金収支額	△ 81,585
前年度末資金残高	339, 636
本年度末資金残高	258, 051
1 1 2 1 2 2 2 2 2 2	200, 001

前年度末歳計外現金残高	21, 905
本年度歳計外現金増減額	△ 333
本年度末歳計外現金残高	21, 573
本年度末現金預金残高	279, 623

注記

1. 重要な会計方針

(1) 有形固定資産等の評価基準及び評価方法

開始時における有形固定資産等の評価は原則として取得原価とし、取得原価が不明 なものは原則として再調達原価としております。また開始後については、原則として 取得原価とし、再調達原価での評価は行わないこととしております。

ただし、道路及び水路の敷地のうち、取得原価が不明なものは備忘価額1円として います。また、物品は原則として取得価額が50万円以上の場合に、その取得価額を 資産として計上しています。

(2) 有価証券等の評価基準及び評価方法

出資金のうち、市場価格があるものは会計年度末における市場価格を持って貸借対照 表価額としております。

出資金のうち、市場価格がないものは出資金額を持って貸借対照表価額としておりま す。ただし、市場価格のないものについて、出資先の財政状態の悪化により出資金の 価値が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしております。なお、出資 金額の価値の低下割合が30%以上である場合には、「著しく低下した場合」に該当 するものとしております。

(3) 有形固定資産等の減価償却の方法 有形固定資産(事業用資産、インフラ資産) 定額法を採用しております。

無形固定資産

定額法を採用しております。

(4) 引当金の計上基準及び算定方法

徴収不能引当金

過去5年間の平均不納欠損率により計上しております。

賞与引当金

翌年度6月支給予定の期末・勤勉手当のうち、全支給対象期間に対する本年度の支給 対象期間の割合を乗じた額を計上しております。

退職給付引当金

地方公共団体財政健全化法における退職手当支給額に係る負担見込額算定方法に従っ ております。

(5) 資金収支計算書における資金の範囲

現金(手許現金及び要求払預金)及び現金同等額(3ヶ月以内の短期投資など)を資 金の範囲としております。このうち現金同等額は、短期投資の他、出納整理期間中の 取引により発生する資金の受け払いも含んでおります。

(6) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項 消費税の会計処理 税込方式によっております。

2 重要な後発事象

(1) 主要な業務の改廃 該当する事象はありません。

3 偶発債務

- (1) その他主要な偶発債務 該当する事象はありません。
- 4 追加情報
 - (1)対象範囲(対象とする会計名) 一般会計
 - (2) 一般会計等と普通会計の対象範囲等の差異
 - 一般会計等は、普通会計の対象範囲と差異がありません。

(3) 出納整理期間について

財務書類の作成基準日は、会計年度末(3月31日)ですが、出納整理期間中の現金の受け払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としております。(地方自治体法第235条の5「普通地方公共団体の出納は、翌年度の5月31日をもって閉鎖する。」)

- (4) 各項目の金額を表示単位未満で四捨五入しているため、合計等の金額が一致しない場合があります。
- (5) 地方公共団体財政健全化法における健全化判断比率の状況 実質赤字比率の算定に必要とされる事項

実質赤字 - 千円 標準財政規模の額 - 5,169,176 千円

(6) 利子補給等に係る債務負担行為の翌年度以降の支出予定額

2,961 千円

(7) 繰越事業に係る将来の支出予定額

継続費逓次繰越額 (一般会計)一 千円繰越明許費 (一般会計)266,714 千円事故繰越額 (一般会計)一 千円事業繰越額 (一般会計)一 千円

(8) 地方交付税措置のある地方債のうち、将来の普通交付税の算定基礎である基準財政需要額に含まれることが見込まれる金額

3,958,300 千円

(9) 将来負担に関する情報(地方公共団体財政健全化法における将来負担比率の算定要素)

イ.	一般会計等に係る地方債の現在高	10, 642, 268 千円
П.	債務負担行為に基づく支出予定額	12, 952 千円
/١.	一般会計等以外の会計の地方債の償還に充てるための一	
	般会計等からの繰入見込額	2, 471, 593 千円
=.	組合等が起こした地方債の償還に係る一般会計等負担見込額	70, 251 千円
木.	退職手当支給予定額に係る一般会計等負担見込額	1, 327, 415 千円
^ .	設立法人の負債の額等に係る一般会計等負担見込額	一 千円
١.	連結実質赤字額	一 千円
チ	組合等の連結実質赤字額に係る一般会計等負担見込額	一 千円
IJ.	地方債の償還額等に充当可能な基金	2,060,671 千円
ヌ.	地方債の償還額等に充当可能な特定の歳入	1,332,475 千円
ル.	地方債の償還等に要する経費として基準財政需	
	要額に算入されることが見込まれる額	6,680,649 千円

(10) 純資産における固定資産等形成分及び余剰分(不足分)の内容

固定資産等形成分は、資産形成のために充当した資源が蓄積されたもので、原則として固定資産等の形態で保有されています。余剰分(不足分)は、費消可能な資源が蓄積されたもので、原則として金銭の形態で保有されています。

(11) 基礎的財政収支

業務活動収支 (支払利息支出を除く。) 919,032 千円 投資活動収支 Δ 2,582,468 千円 基礎的財政収支 Δ 1,663,436 千円

(12) 既存の決算情報との関連性

ストック情報(資産・負債)や現金支出を伴わないコストを発生主義で認識しています。

(13) 一時借入金 一時借入金の増減額は含まれていません。

一時借入金の限度額一時借入金に係る利子額

3,000,000 千円 362 千円

全体貸借対照表

(令和3年3月31日現在)

			(単位:千円)
科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	43, 891, 244	固定負債	14, 913, 539
有形固定資産	42, 335, 578	地方債等	13, 059, 102
事業用資産	18, 069, 484	長期未払金	204, 594
土地	7, 464, 542	退職手当引当金	1, 392, 421
立木竹	786, 658	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1, 032, 421
			257 421
建物	28, 736, 638	その他	257, 421
建物減価償却累計額	△ 19, 107, 592	流動負債	1, 436, 732
工作物	430, 955	1年内償還予定地方債等	1, 145, 780
工作物減価償却累計額	△ 262, 021	未払金	152, 578
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	_	前受収益	_
浮標等減価償却累計額	_	賞与等引当金	80, 731
航空機	_	預り金	48, 544
航空機減価償却累計額	_	その他	9, 099
が土成成画資本来可領 その他	_	負債合計	16, 350, 271
	_		10, 330, 271
その他減価償却累計額	00.004	【純資産の部】	44 040 000
建設仮勘定	20, 304	固定資産等形成分	44, 816, 033
インフラ資産	22, 974, 840	余剰分(不足分)	△ 15, 512, 153
土地	1, 751, 261	他団体出資等分	_
建物	5, 160, 414		
建物減価償却累計額	△ 1, 915, 417		
工作物	50, 409, 914		
工作物減価償却累計額	△ 32, 945, 700		
その他	_ = ==, , ,		
その他減価償却累計額	_		
	514, 369		
建設仮勘定			
物品	2, 719, 846		
物品減価償却累計額	△ 1, 428, 592		
無形固定資産	1, 864		
ソフトウェア	-		
その他	1, 864		
投資その他の資産	1, 553, 802		
投資及び出資金	24, 288		
有価証券	_		
出資金	24, 288		
その他			
投資損失引当金			1
	45 700		1
長期延滞債権	45, 796		1
長期貸付金	1 004 040		
基金	1, 324, 019		
減債基金	_		
その他	1, 324, 019		
その他	166, 277		1
徴収不能引当金	△ 6,578		1
流動資産	1, 762, 906		1
現金預金	754, 611		1
未収金	83, 895		1
ー たな並 短期貸付金	15, 000		1
基金	909, 788		
財政調整基金	907, 145		
減債基金	2, 643		1
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 389		
繰延資産	_	純資産合計	29, 303, 879
資産合計	45, 654, 150	負債及び純資産合計	45, 654, 150
Z 3 1			

【様式第2号】

全体行政コスト計算書

自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日

経常費用 6,688,803		
業務費用 6,688,803 人件費 1,709,936 職員給与費 1,538,592 賞与等引当金繰入額 16,231 その他 74,382 物件費等 4,818,660 物件費 2,672,546 維持補修費 217,172 減価償却費 1,790,859 その他 56,626 移転費用 97,873 徴収不能引当金繰入額 5,707 その他 56,626 移転費用 4,046,650 社会保障給付 683,129 その他 10,041 経常収益 672,876 その他 482,944 純経常行政コスト 10,272,803 臨時損失 7,101 投資損失引当金繰入額 - その他 25 臨時利益 74,950	科目	金額
人件費 1,709,936 職員給与費 1,538,592 賞与等引当金繰入額 80,731 退職手当引当金繰入額 16,231 その他 74,382 物件費等 4,818,660 物件費 2,672,546 維持補修費 217,172 減価償却費 1,790,859 その他 138,083 その他の業務費用 160,207 支払利息 5,707 その他 56,626 移転費用 4,046,650 社会保障給付 683,129 その他 10,041 経常収益 672,876 その他 482,944 純経常行政コスト 10,272,803 臨時損失 7,101 投資損失引当金繰入額 - その他 25 臨時利益 74,950	経常費用	
職員給与費 賞与等引当金繰入額 退職手当引当金繰入額 その他 特費等 物件費等 名の他 名の他 名の他 名の他 名の他 名の他 名の他の業務費用 支払利息 での他 名の他 名の他 名の他 名の他 名の他 名の他 名の他 名の他 名の他 名	業務費用	6, 688, 803
賞与等引当金繰入額 退職手当引当金繰入額 その他 74,382 物件費等 4,818,660 物件費 2,672,546 維持補修費 217,172 減価償却費 その他 138,083 その他の業務費用 5,707 その他 名が表費用 97,873 徴収不能引当金繰入額 その他 移転費用 4,739,820 移転費用 4,046,650 社会保障給付 その他 経常収益 行政コスト 経常収益 使用料及び手数料 その他 482,944 純経常行政コスト お時損失 災害復旧事業費 資産除売却損 投資損失引当金繰入額 その他 25 臨時利益 74,950	人件費	1, 709, 936
退職手当引当金繰入額 74,382 74,818,660 74,382 74,818,660 物件費等 2,672,546 維持補修費 217,172 減価償却費 1,790,859 その他 138,083 その他の業務費用 160,207 支払利息 97,873 徴収不能引当金繰入額 5,707 その他 56,626 移転費用 4,739,820 社会保障給付 683,129 その他 10,041 経常収益 1,155,820 使用料及び手数料 672,876 その他 482,944 200	職員給与費	1, 538, 592
その他 74,382 物件費等 4,818,660 物件費 2,672,546 維持補修費 217,172 減価償却費 1,790,859 その他 138,083 その他の業務費用 160,207 支払利息 97,873 徴収不能引当金繰入額 5,707 その他 56,626 移転費用 4,739,820 補助金等 4,046,650 社会保障給付 683,129 その他 10,041 径常収益 1,155,820 使用料及び手数料 672,876 その他 482,944 純経常行政コスト 10,272,803 臨時損失 次害復旧事業費 6産除売却損 7,101 投資損失引当金繰入額 - 環共 (特別) (大分) (大分) (大分) (大分) (大分) (大力) (大力) (大力) (大力) (大力) (大力) (大力) (大力	賞与等引当金繰入額	80, 731
物件費等 4,818,660 物件費 2,672,546 維持補修費 217,172 減価償却費 1,790,859 その他 138,083 その他の業務費用 160,207 支払利息 97,873 徴収不能引当金繰入額 5,707 その他 56,626 移転費用 4,739,820 補助金等 4,046,650 社会保障給付 683,129 その他 10,041 経常収益 672,876 その他 482,944 純経常行政コスト 10,272,803 臨時損失 7,101 投資損失引当金繰入額 - その他 25 臨時利益 74,950	退職手当引当金繰入額	16, 231
物件費 2,672,546 維持補修費 217,172 減価償却費 1,790,859 その他 138,083 その他の業務費用 160,207 支払利息 97,873 徴収不能引当金繰入額 5,707 その他 4,739,820 補助金等 4,046,650 社会保障給付 683,129 その他 10,041 経常収益 1,155,820 使用料及び手数料 672,876 その他 482,944 純経常行政コスト 10,272,803 臨時損失 7,126 災害復旧事業費 - 資産除売却損 7,101 投資損失引当金繰入額 - その他 25 臨時利益 74,950	その他	74, 382
物件費 2,672,546 維持補修費 217,172 減価償却費 1,790,859 その他 138,083 その他の業務費用 160,207 支払利息 97,873 徴収不能引当金繰入額 5,707 その他 4,739,820 補助金等 4,046,650 社会保障給付 683,129 その他 10,041 経常収益 1,155,820 使用料及び手数料 672,876 その他 482,944 純経常行政コスト 10,272,803 臨時損失 7,126 災害復旧事業費 - 資産除売却損 7,101 投資損失引当金繰入額 - その他 25 臨時利益 74,950	物件費等	4, 818, 660
減価償却費 その他 138,083 その他の業務費用 54.160,207 支払利息 物収不能引当金繰入額 その他 56,626 移転費用 4,739,820 補助金等 社会保障給付 その他 10,041 経常収益 使用料及び手数料 その他 482,944 純経常行政コスト お時損失 災害復旧事業費 資産除売却損 投資損失引当金繰入額 長機共補償等引当金繰入額 その他 25 臨時利益 1,790,859 160,207 160,207 160,207 160,207 170,876 170,041	物件費	2, 672, 546
その他の業務費用 160, 207 支払利息 97, 873 徴収不能引当金繰入額 5, 707 その他 56, 626 移転費用 4, 739, 820 補助金等 4, 046, 650 社会保障給付 683, 129 その他 10, 041 経常収益 1, 155, 820 使用料及び手数料 672, 876 その他 482, 944 純経常行政コスト 10, 272, 803 臨時損失 7, 126 災害復旧事業費 - 資産除売却損 7, 101 投資損失引当金繰入額 - 損失補償等引当金繰入額 - 程規失補償等引当金繰入額 - その他 25 臨時利益 74, 950	維持補修費	217, 172
その他の業務費用 160, 207 支払利息 97, 873 徴収不能引当金繰入額 5, 707 その他 56, 626 移転費用 4, 739, 820 補助金等 4, 046, 650 社会保障給付 683, 129 その他 10, 041 経常収益 1, 155, 820 使用料及び手数料 672, 876 その他 482, 944 純経常行政コスト 10, 272, 803 臨時損失 7, 126 災害復旧事業費 7, 101 投資損失引当金繰入額 - 投資機等引当金繰入額 - その他 25 臨時利益 74, 950	減価償却費	1, 790, 859
支払利息 徴収不能引当金繰入額 その他97,873 5,707 56,626移転費用 補助金等 社会保障給付 その他4,739,820 4,046,650 683,129 683,129 670,041経常収益 使用料及び手数料 その他 校用料及び手数料 その他 482,9441,155,820 672,876 482,944純経常行政コスト 総経常行政コスト 節時損失 災害復旧事業費 資産除売却損 投資損失引当金繰入額 その他 損失補償等引当金繰入額 その他 25 臨時利益7,101 272,803	その他	138, 083
徴収不能引当金繰入額 その他5,707 56,626移転費用 補助金等 社会保障給付 その他4,739,820 4,046,650 683,129 683,129 10,041経常収益 使用料及び手数料 その他1,155,820 672,876 482,944純経常行政コスト10,272,803臨時損失 災害復旧事業費 資産除売却損 投資損失引当金繰入額 長補償等引当金繰入額 その他 その他 25 574,950	その他の業務費用	160, 207
徴収不能引当金繰入額 その他5,707 56,626移転費用 補助金等 社会保障給付 その他4,739,820 4,046,650 683,129 683,129 10,041経常収益 使用料及び手数料 その他1,155,820 672,876 482,944純経常行政コスト10,272,803臨時損失 災害復旧事業費 資産除売却損 投資損失引当金繰入額 長補償等引当金繰入額 その他 その他 25 574,950	支払利息	97, 873
移転費用 4,739,820 補助金等 4,046,650 社会保障給付 683,129 その他 10,041 経常収益 1,155,820 使用料及び手数料 672,876 その他 482,944 純経常行政コスト 10,272,803 臨時損失 7,126 災害復旧事業費 - 資産除売却損 7,101 投資損失引当金繰入額 - 投資損失引当金繰入額 - その他 25 臨時利益 74,950	徴収不能引当金繰入額	
移転費用 4,739,820 補助金等 4,046,650 社会保障給付 683,129 その他 10,041 経常収益 1,155,820 使用料及び手数料 672,876 その他 482,944 純経常行政コスト 10,272,803 臨時損失 7,126 災害復旧事業費 - 資産除売却損 7,101 投資損失引当金繰入額 - 投資損失引当金繰入額 - その他 25 臨時利益 74,950	その他	56, 626
社会保障給付 683, 129 その他 10, 041 経常収益 1, 155, 820 使用料及び手数料 672, 876 その他 482, 944 純経常行政コスト 10, 272, 803 臨時損失 7, 126 災害復旧事業費 - 資産除売却損 7, 101 投資損失引当金繰入額 - 投資損失引当金繰入額 - その他 25 臨時利益 74, 950	移転費用	4, 739, 820
その他10,041経常収益1,155,820使用料及び手数料672,876その他482,944純経常行政コスト10,272,803臨時損失7,126災害復旧事業費-資産除売却損7,101投資損失引当金繰入額-長補償等引当金繰入額-その他25臨時利益74,950	補助金等	4, 046, 650
経常収益 使用料及び手数料 その他1,155,820 672,876 482,944純経常行政コスト10,272,803臨時損失 災害復旧事業費 資産除売却損 投資損失引当金繰入額 損失補償等引当金繰入額 その他 医時利益7,101 7,101 25 74,950	社会保障給付	683, 129
使用料及び手数料 その他672,876 482,944純経常行政コスト10,272,803臨時損失 災害復旧事業費 資産除売却損 投資損失引当金繰入額 長補償等引当金繰入額 その他 に 574,950	その他	10, 041
その他482,944純経常行政コスト10,272,803臨時損失7,126災害復旧事業費-資産除売却損7,101投資損失引当金繰入額-損失補償等引当金繰入額-その他25臨時利益74,950	経常収益	1, 155, 820
純経常行政コスト10,272,803臨時損失7,126災害復旧事業費-資産除売却損7,101投資損失引当金繰入額-損失補償等引当金繰入額-その他25臨時利益74,950	使用料及び手数料	672, 876
臨時損失7,126災害復旧事業費-資産除売却損7,101投資損失引当金繰入額-損失補償等引当金繰入額-その他25臨時利益74,950	その他	482, 944
災害復旧事業費-資産除売却損7,101投資損失引当金繰入額-損失補償等引当金繰入額-その他25臨時利益74,950	純経常行政コスト	10, 272, 803
資産除売却損7, 101投資損失引当金繰入額-損失補償等引当金繰入額-その他25臨時利益74, 950	臨時損失	7, 126
投資損失引当金繰入額 - 損失補償等引当金繰入額 - その他 25 臨時利益 74,950	災害復旧事業費	_
損失補償等引当金繰入額 - 25 この他 25 この時利益 74,950	資産除売却損	7, 101
その他 25 臨時利益 74,950	投資損失引当金繰入額	_
臨時利益 74,950	損失補償等引当金繰入額	_
	その他	25
▶ 资产丰和共 73 225	臨時利益	74, 950
【 具座光型量	資産売却益	73, 225
その他 1,725	その他	1, 725
純行政コスト 10, 204, 980	純行政コスト	10, 204, 980

全体純資産変動計算書

自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日

	-			
科目	合計	固定資産	余剰分	他団体出資等分
		等形成分	(不足分)	
前年度末純資産残高	29, 428, 807	42, 698, 995	△ 13, 270, 189	_
純行政コスト (△)	△ 10, 204, 980		△ 10, 204, 980	_
財源	10, 055, 518		10, 055, 518	-
税収等	6, 522, 527		6, 522, 527	-
国県等補助金	3, 532, 991		3, 532, 991	-
本年度差額	△ 149, 462		△ 149, 462	-
固定資産等の変動(内部変動)		2, 087, 673	△ 2, 087, 673	
有形固定資産等の増加		3, 702, 654	△ 3, 702, 654	
有形固定資産等の減少		△ 1, 960, 492	1, 960, 492	
貸付金・基金等の増加		510, 510	△ 510, 510	
貸付金・基金等の減少		△ 165, 000	165, 000	
資産評価差額	-	-		
無償所管換等	16, 338	16, 338		
他団体出資等分の増加	_			-
他団体出資等分の減少	_			-
その他	8, 196	13, 026	△ 4,830	
本年度純資産変動額	△ 124, 928	2, 117, 037	△ 2, 241, 965	
本年度末純資産残高	29, 303, 879	44, 816, 033	△ 15, 512, 153	

全体行政コスト及び純資産変動計算書

自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日

科目	金額	İ		(单位、十口)
	11, 428, 623			
業務費用	6, 688, 803			
人件費	1, 709, 936			
職員給与費	1, 538, 592			
賞与等引当金繰入額	80, 731			
退職手当引当金繰入額	16, 231			
その他	74, 382			
物件費等	4, 818, 660			
物件費物件費	2, 672, 546			
初	217, 172			
減価償却費	1, 790, 859			
	138, 083			
その他の業務費用	160, 207			
支払利息	97, 873			
发	5, 707			
	56, 626			
	4, 739, 820			
移転費用 補助金等	4, 739, 620			
	683, 129			
社会保障給付	10, 041			
その他				
経常収益	1, 155, 820			
使用料及び手数料	672, 876 482, 944			
その他	10, 272, 803			
純経常行政コスト	7, 126			
	7, 120			
₩	7, 101			
投資損失引当金繰入額	7, 101			
	_			
その他	25			
臨時利益	74, 950			
資産売却益	73, 225		金額	
その他	1, 725	固定資産等形成分	余剰分(不足分)	他団体出資等分
純行政コスト	10, 204, 980	固定其注于形成力	10, 204, 980	一 10四件四页寸/7
財源	10, 055, 518		10, 055, 518	_
税収等	6, 522, 527		6, 522, 527	_
国県等補助金	3, 532, 991		3, 532, 991	_
本年度差額	△ 149, 462		△ 149, 462	_
固定資産等の変動(内部変動)		2, 087, 673	△ 2, 087, 673	
有形固定資産等の増加		3, 702, 654	△ 3, 702, 654	
有形固定資産等の減少		△ 1, 960, 492	1, 960, 492	
貸付金・基金等の増加		510, 510	△ 510, 510	
貸付金・基金等の減少		△ 165,000	165, 000	
資産評価差額	-			
無償所管換等	16, 338	16, 338		
他団体出資等分の増加	-			-
他団体出資等分の減少	-			-
その他	8, 196	13, 026	△ 4,830	
本年度純資産変動額	△ 124, 928	2, 117, 037	△ 2, 241, 965	
前年度末純資産残高	29, 428, 807	42, 698, 995	△ 13, 270, 189	
本年度末純資産残高	29, 303, 879	44, 816, 033	△ 15, 512, 153	

全体資金収支計算書

自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日

	(平位・111)
科目	金額
【業務活動収支】	
★ 業務支出	9, 528, 876
業務費用支出	4, 789, 056
人件費支出	1, 729, 783
	2, 904, 773
物件費等支出	
支払利息支出	97, 873
その他の支出	56, 626
移転費用支出	4, 739, 820
補助金等支出	4, 046, 650
1	683, 129
社会保障給付支出	
その他の支出	10, 041
┃ 業務収入	10, 986, 183
税収等収入	6, 505, 474
国県等補助金収入	3, 283, 916
使用料及び手数料収入	673, 494
その他の収入	523, 299
臨時支出	_
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	_
臨時収入	_
業務活動収支	1, 457, 307
【投資活動収支】	1, 407, 007
	2 054 400
投資活動支出	3, 954, 402
公共施設等整備費支出	3, 215, 118
基金積立金支出	724, 284
投資及び出資金支出	_
貸付金支出	15, 000
その他の支出	10,000
	814, 153
投資活動収入	
国県等補助金収入	249, 075
基金取崩収入	437, 451
貸付金元金回収収入	15, 000
資産売却収入	101, 808
その他の収入	10, 819
投資活動収支	△ 3, 140, 249
	<u> </u>
【財務活動収支】	1 000 044
財務活動支出	1, 062, 044
地方債等償還支出	1, 062, 044
その他の支出	=
財務活動収入	2, 708, 571
地方債等発行収入	2, 708, 571
	[2, 700, 07]
その他の収入	1 646 507
財務活動収支	1, 646, 527
本年度資金収支額	△ 36, 415
前年度末資金残高	769, 454
本年度末資金残高	733, 039
前年度末歳計外現金残高	21, 905
	△ 333
本年度歳計外現金増減額 本年度表記以現金建意	
本年度末歳計外現金残高	21, 573
本年度末現金預金残高	754, 611

注記

1. 重要な会計方針

(1) 有形固定資産等の評価基準及び評価方法

開始時における有形固定資産等の評価は原則として取得原価とし、取得原価が不明なものは原則として再調達原価としております。また開始後については、原則として取得原価とし、再調達原価での評価は行わないこととしております。

ただし、道路及び水路の敷地のうち、取得原価が不明なものは備忘価額1円としています。また、物品は原則として取得価額が50万円以上の場合に、その取得価額を資産として計上しています。

(2) 有価証券等の評価基準及び評価方法

出資金のうち、市場価格があるものは会計年度末における市場価格を持って貸借対照 表価額としております。

出資金のうち、市場価格がないものは出資金額を持って貸借対照表価額としております。ただし、市場価格のないものについて、出資先の財政状態の悪化により出資金の価値が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしております。なお、出資金額の価値の低下割合が30%以上である場合には、「著しく低下した場合」に該当するものとしております。

(3) 有形固定資産等の減価償却の方法 有形固定資産(事業用資産、インフラ資産) 定額法を採用しております。

無形固定資産

定額法を採用しております。

(4) 引当金の計上基準及び算定方法

徴収不能引当金

過去5年間の平均不納欠損率により計上しております。

當与引当金

翌年度6月支給予定の期末・勤勉手当のうち、全支給対象期間に対する本年度の支給 対象期間の割合を乗じた額を計上しております。

退職給付引当金

地方公共団体財政健全化法における退職手当支給額に係る負担見込額算定方法に従っております。

損失補償引当金

地方公共団体財政健全化法における損失補償債務等に係る一般会計等負担見込額算定 方式に従っております。

(5) 資金収支計算書における資金の範囲

現金 (手許現金及び要求払預金)及び現金同等額 (3ヶ月以内の短期投資など)を資金の範囲としております。このうち現金同等額は、短期投資の他、出納整理期間中の取引により発生する資金の受け払いも含んでおります。

(6) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項 消費税の会計処理 税込方式によっております。ただし、水道事業会計は税抜方式によっています。

2 重要な後発事象

(1)主要な業務の改廃 該当する事象はありません。

3 偶発債務

(1) その他主要な偶発債務 該当する事象はありません。

4 追加情報

- (1)対象範囲(対象とする会計名) 一般会計、国民健康保険事業特別会計、後期高齢者医療事業特別会計 介護保険サービス事業特別会計、公共下水道事業特別会計 地方卸売市場事業特別会計、水道事業会計
- (2) 出納整理期間について 財務書類の作成基準日は、会計年度末(3月31日)ですが、出納整理期間中の現金 の受け払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としております。(地方 自治体法第235条の5「普通地方公共団体の出納は、翌年度の5月31日をもって 閉鎖する。」)
- (3) 各項目の金額を表示単位未満で四捨五入しているため、合計等の金額が一致しない場合があります。

連結貸借対照表

(令和3年3月31日現在)

			(単位:千円)
科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	44, 244, 527	固定負債	14, 971, 125
有形固定資産	42, 658, 087	地方債等	13, 111, 041
事業用資産	18, 260, 083	長期未払金	204, 594
● ● 乗用負性 土地	7, 493, 314	退職手当引当金	1, 392, 421
_			1, 392, 421
立木竹	786, 658	損失補償等引当金	
建物	29, 420, 258	その他	263, 069
建物減価償却累計額	△ 19, 630, 680	流動負債	1, 470, 261
建物減損損失累計額	55, 722	1年内償還予定地方債等	1, 145, 780
┸作物	376, 453	未払金	152, 578
工作物減価償却累計額	△ 262, 021	未払費用	· -
工作物減損損失累計額	202,021	前受金	_
船舶	_	前受収益	101 440
船舶減価償却累計額	_	賞与等引当金	101, 449
船舶減損損失累計額	=	預り金	60, 745
│	-	その他	9, 709
浮標等減価償却累計額	-	負債合計	16, 441, 386
浮標等減損損失累計額	_	【純資産の部】	
航空機	_	固定資産等形成分	45, 178, 847
加土版 航空機減価償却累計額	_	余剰分(不足分)	△ 15, 402, 096
			\(\text{\begin{align*} \text{\begin{align*} \
航空機減損損失累計額		他団体出資等分	_
その他	164		
その他減価償却累計額	△ 90		
その他減損損失累計額	-		
建設仮勘定	20, 304		
インフラ資産	23, 007, 760		
土地	1, 751, 261		
建物	5, 160, 414		
建物減価償却累計額	△ 1, 915, 4 17		
建物減損損失累計額	-		
┃ 工作物	50, 736, 750		
工作物減価償却累計額	△ 33, 239, 616		
工作物減損損失累計額	_		
その他	_		
その他減価償却累計額	_		
その他減損損失累計額	- -		
建設仮勘定 建設仮勘定	514, 369		
物品	3, 239, 695		
物品減価償却累計額	△ 1, 849, 452		
物品減損損失累計額	_		
無形固定資産	10, 072		
ソフトウェア	8, 208		
その他	1, 864		
	1, 576, 368		
投資その他の資産			
投資及び出資金	24, 288		
有価証券	_ =		
出資金	24, 288		
その他	-		
長期延滞債権	46, 204		
長期貸付金	_		
基金	1, 346, 193		
本 減債基金	., 515, 155		
The state of the s	1, 346, 193		
その他			
その他	166, 277		
徵収不能引当金	△ 6, 594		
流動資産	1, 973, 611		
現金預金	953, 289		
未収金	86, 391		
短期貸付金	15, 000		
基金	919, 320		
財政調整基金	916, 677		
減債基金	2, 643		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 389		
繰延資産		純資産合計	29, 776, 751
資産合計	46, 218, 138	負債及び純資産合計	46, 218, 138
			, ,

【様式第2号】

連結行政コスト計算書

自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日

	(単位:十円)
科目	金額
経常費用	15, 351, 470
業務費用	7, 288, 037
人件費	1, 995, 361
職員給与費	1, 794, 383
賞与等引当金繰入額	101, 449
退職手当引当金繰入額	16, 231
その他	83, 299
物件費等	5, 066, 683
物件費	2, 855, 842
維持補修費	230, 891
減価償却費	1, 841, 744
その他	138, 206
その他の業務費用	225, 993
支払利息	98, 184
数収不能引当金繰入額	5, 723
その他	122, 085
移転費用	8, 063, 433
補助金等	5, 470, 671
社会保障給付	2, 582, 069
その他	10, 693
経常収益	1, 168, 114
使用料及び手数料	680, 358
その他	487, 756
純経常行政コスト	14, 183, 356
臨時損失	18, 327
災害復旧事業費	-
資産除売却損	18, 302
損失補償等引当金繰入額	_
その他	25
臨時利益	74, 952
資産売却益	73, 225
その他	1, 727
純行政コスト	14, 126, 731

連結純資産変動計算書

自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日

科目	合計	固定資産	余剰分	 他団体出資等分
		等形成分	(不足分)	他因件田县等力
前年度末純資産残高	29, 847, 255	43, 056, 482	△ 13, 209, 228	_
純行政コスト (△)	△ 14, 126, 731		△ 14, 126, 731	-
財源	14, 050, 063		14, 050, 063	-
税収等	8, 909, 494		8, 909, 494	-
国県等補助金	5, 140, 569		5, 140, 569	-
本年度差額	△ 76, 667		△ 76, 667	_
固定資産等の変動(内部変動)		2, 092, 152	△ 2, 092, 152	
有形固定資産等の増加		3, 714, 716	△ 3, 714, 716	
有形固定資産等の減少		△ 1, 963, 272	1, 963, 272	
貸付金・基金等の増加		549, 973	△ 549, 973	
貸付金・基金等の減少		△ 209, 266	209, 266	
資産評価差額	-	-		
無償所管換等	17, 187	17, 187		
他団体出資等分の増加	_			-
他団体出資等分の減少	_			_
比例連結割合変更に伴う差額	_			_
その他	△ 11,023	13, 026	△ 24, 049	
本年度純資産変動額	△ 70, 504	2, 122, 365	Δ 2, 192, 868	
本年度末純資産残高	29, 776, 751	45, 178, 847	△ 15, 402, 096	

連結行政コスト及び純資産変動計算書

自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日

41_		•		(単位:千円)
科目	金額			
経常費用	15, 351, 470			
業務費用	7, 288, 037			
人件費	1, 995, 361			
職員給与費	1, 794, 383			
以	101, 449			
退職手当引当金繰入額	16, 231			
その他	83, 299			
物件費等	5, 066, 683			
│ 物件費	2, 855, 842			
維持補修費	230, 891			
減価償却費	1, 841, 744			
その他	138, 206			
その他の業務費用	225, 993			
支払利息	98, 184			
徵収不能引当金繰入額	5, 723			
その他	122, 085			
移転費用	8, 063, 433			
補助金等	5, 470, 671			
社会保障給付	2, 582, 069			
その他	10, 693			
経常収益	1, 168, 114			
	680, 358			
使用料及び手数料				
その他	487, 756			
純経常行政コスト	14, 183, 356			
臨時損失	18, 327			
災害復旧事業費				
資産除売却損	18, 302			
損失補償等引当金繰入額	_			
その他	25			
臨時利益	74, 952			
資産売却益	73, 225		金額	
その他	1, 727	固定資産等形成分	余剰分(不足分)	他団体出資等分
純行政コスト	14, 126, 731		14, 126, 731	_
財源	14, 050, 063		14, 050, 063	_
税収等	8, 909, 494		8, 909, 494	_
国県等補助金	5, 140, 569		5, 140, 569	_
本年度差額	△ 76, 667		△ 76, 667	_
固定資産等の変動(内部変動)		2, 092, 152	△ 2, 092, 152	
有形固定資産等の増加		3, 714, 716	△ 3, 714, 716	
有形固定資産等の減少		△ 1, 963, 272	1, 963, 272	
		549, 973	1, 903, 272 △ 549, 973	
貸付金・基金等の増加				
貸付金・基金等の減少		△ 209, 266	209, 266	
資産評価差額	17 107	17 107		
無償所管換等	17, 187	17, 187		
他団体出資等分の増加	_			_
他団体出資等分の減少	_			_
比例連結割合変更に伴う差額		10.000		
その他	△ 11, 023	13, 026	△ 24, 049	
本年度純資産変動額	△ 70, 504	2, 122, 365	Δ 2, 192, 868	_
前年度末純資産残高	29, 847, 255	43, 056, 482	△ 13, 209, 228	_
本年度末純資産残高	29, 776, 751	45, 178, 847	△ 15, 402, 096	

連結資金収支計算書

自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日

	(単位:十一)
科目	金額
【**** マケ トス チム ハp → 】	
【業務活動収支】	
業務支出	13, 418, 500
業務費用支出	5, 355, 067
人件費支出	2, 014, 152
物件費等支出	3, 102, 073
支払利息支出	98, 184
その他の支出	140, 658
移転費用支出	8, 063, 433
補助金等支出	5, 470, 671
社会保障給付支出	2, 582, 069
その他の支出	10, 693
業務収入	14, 992, 837
税収等収入	8, 892, 185
国県等補助金収入	4, 891, 494
使用料及び手数料収入	680, 976
その他の収入	528, 182
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	_
- このにの人口 - 臨時収入	_ [
	1, 574, 337
業務活動収支	1, 574, 557
【投資活動収支】	
投資活動支出	4, 039, 957
公共施設等整備費支出	3, 261, 322
基金積立金支出	763, 635
投資及び出資金支出	, 55, 555
	15 000
貸付金支出	15, 000
その他の支出	
投資活動収入	858, 264
国県等補助金収入	249, 075
基金取崩収入	481, 562
■	15, 000
資産売却収入	101, 808
その他の収入	10, 819
投資活動収支	△ 3, 181, 692
【財務活動収支】	
財務活動支出	1, 082, 771
地方債等償還支出	1, 081, 707
その他の支出	1, 065
財務活動収入	2, 708, 571
地方債等発行収入	2, 708, 571
その他の収入	
財務活動収支	1, 625, 800
本年度資金収支額	18, 444
前年度末資金残高	901, 071
比例連結割合変更に伴う差額	<u> </u>
本年度末資金残高	919, 515
	0.0,010
苏左连士先孙母 春瑶宫	00 1///
前年度末歳計外現金残高	23, 144
本年度歳計外現金増減額	10, 630
本年度末歳計外現金残高	33, 774
本年度末現金預金残高	953, 289
・1・1・人のジェスエスの円	555, 200

1. 重要な会計方針

(1) 有形固定資産等の評価基準及び評価方法

開始時における有形固定資産等の評価は原則として取得原価とし、取得原価が不明なものは原則として再調達原価としております。また開始後については、原則として取得原価とし、再調達原価での評価は行わないこととしております。ただし、道路及び水路の敷地のうち、取得原価が不明なものは備忘価額1円としています。また、物品は原則として取得価額が50万円以上の場合に、その取得価額

(2) 有価証券等の評価基準及び評価方法

を資産として計上しています。

出資金のうち、市場価格があるものは会計年度末における市場価格を持って貸借対 照表価額としております。

出資金のうち、市場価格がないものは出資金額を持って貸借対照表価額としております。ただし、市場価格のないものについて、出資先の財政状態の悪化により出資金の価値が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしております。なお、出資金額の価値の低下割合が30%以上である場合には、「著しく低下した場合」に該当するものとしております。

(3) 有形固定資産等の減価償却の方法 有形固定資産(事業用資産、インフラ資産)

定額法を採用しております。

無形固定資産

定額法を採用しております。

(4) 引当金の計上基準及び算定方法

徴収不能引当金

過去5年間の平均不納欠損率により計上しております。

當与引当金

翌年度6月支給予定の期末・勤勉手当のうち、全支給対象期間に対する本年度の支給対象期間の割合を乗じた額を計上しております。

退職給付引当金

地方公共団体財政健全化法における退職手当支給額に係る負担見込額算定方法に 従っております。

損失補償引当金

地方公共団体財政健全化法における損失補償債務等に係る一般会計等負担見込額算 定方式に従っております。

(5) 資金収支計算書における資金の範囲

現金 (手許現金及び要求払預金) 及び現金同等額 (3ヶ月以内の短期投資など)を 資金の範囲としております。このうち現金同等額は、短期投資の他、出納整理期間 中の取引により発生する資金の受け払いも含んでおります。

(6) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

消費税の会計処理

税込方式によっております。ただし、水道事業会計は税抜方式によっています。

2 重要な後発事象

(1) 主要な業務の改廃

該当する事象はありません。

3 偶発債務

該当する事象はありません。

4 追加情報

(1)対象範囲(対象とする会計名等) 一般会計、国民健康保険事業特別会計、後期高齢者医療事業特別会計 が、国民とはない。 介護保険サービス事業特別会計、公共下水道事業特別会計 地方卸売市場事業特別会計、水道事業会計 倶知安町土地開発公社、羊蹄山ろく消防組合、羊蹄山麓衛生組合 後志教育研修センター、後志広域連合、北海道後期高齢者医療広域連合

(2) 出納整理期間について

財務書類の作成基準日は、会計年度末(3月31日)ですが、出納整理期間中の現金の受け払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としております。 (地方自治体法第235条の5「普通地方公共団体の出納は、翌年度の5月31日 をもって閉鎖する。」)

(3) 各項目の金額を表示単位未満で四捨五入しているため、合計等の金額が一致しな い場合があります。